

連載

【第6回】

学び合う教室。 育ち合う学校

沖縄本島北部(やんばる)へ

那覇空港に降り立つと、梅雨明けの青空がどこまでも透明である。車で1時間、沖縄本島北部の国頭村と名護市を訪問した。車道には赤や黄のハイビスカスの花が鮮やかだ。

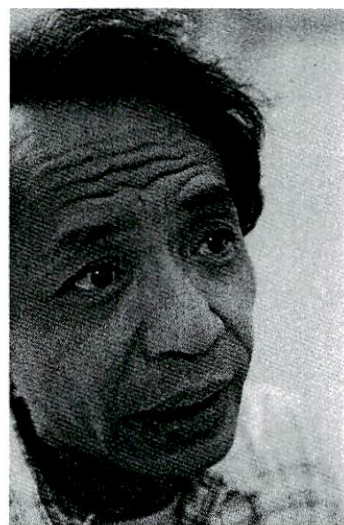
国頭村には中学校が1校、小学校が7校ある。そのすべての学校において、昨年からは「学びの共同体」の学校改革が着手された。同じ「やんばる」の名護市と沖縄南部の糸満市と宮古島においても改革ののろしがあがっており、今回の沖縄訪問はくすぶって燃え上がる「歴史的事件」となった。名護市以北の国頭地域は、八重山地域と

並んで沖縄県で最も学力が低い地域である。日本全体の学力マップにおいて最底辺の地域と言ってもよい。その国頭地域において「学びの共同体」の改革が始まったのは2年前、国頭村教育委員会の神元勉課長と宮城尚志主事が広島市立祇園東中学校の公開研究会に参加し、その後、伊東市で行われた「学びの共同体」の合宿研究会にも二人が参加したことを契機としている。神元課長は、翌年、国頭中学校の校長となつて学校づくりに着手し、宮城主事は「学びの共同体」関連の本を熟読した後、村内すべての学校と教室を訪問して、教師たちの授業改革を支援してきた。この動きは小橋川春武教育長の積極的な支援と村議会の財政援助によって加速し、今年1月には村校長会で富士市の丘小学校と田子浦中学校を

訪問、5月には福岡県八女市立岡山小学校の公開研究会に16名の教師を派遣する事業へと展開する。

他方、名護市では、数年来、教育委員会の指導員の岸本琴恵さんと東江中学校教頭(当時)の島袋賢雄さんが何度も本土の「学びの共同体」の研究会に参加して導入をはかり、同校の劇的な改善を達成しつつあった。しかも名護市の座間味法子教育長は、創設当初と近年の2回にわたつて茅ヶ崎市浜之郷小学校を訪問した経験をもち、「学びの共同体」の導入に積極的である。

これら一連の動きによって、国頭村教育委員会と名護市教育委員会の連携が成立し、私の招聘と国頭中学校と東江中学校の2校における公開研究会が実現したのである。なお、この二つの公開研究会には、国

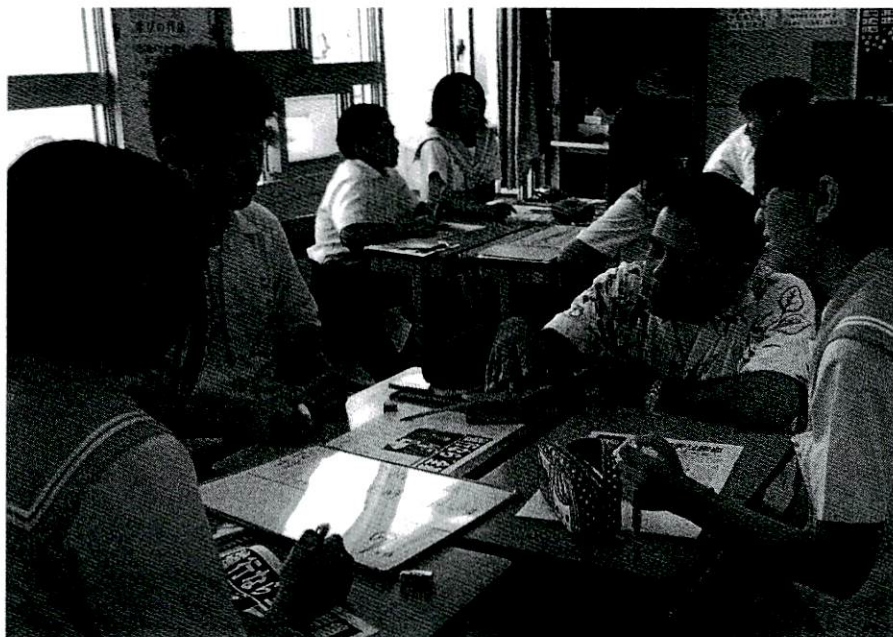


学習院大学教授

佐藤 学

さとう・まなぶ 1951年、広島県生まれ。著書には最新刊『学校見聞録』『教師花伝書』『教師たちの挑戦』(以上、小学館)等、多数。

燃える沖縄の学校改革



オスプレイ配備について学ぶ国頭中学校社会科の授業。

頭村の全教師および名護市の多数の教師が参加したほか、宮古島、糸満市など沖縄全域から多数の教師が参加した。まさに「歴史的事件」と言うべき灼熱の3日間となった。

訪問の初日、空港から直接、国頭村の奥間小学校と辺土名小学校の2校と教育委員会を訪問し、夜は夕食を囲んで小橋川教育長、金城村議会議長、宮城主事、および神元校長をはじめとするすべての小中学校長と、熱く語り合った。私が最も驚いたのは、小中学校8校の学校改革と授業改革がわずか1年足らずで一挙に進展し、しかも見聞した限りにおいて着実な展開を遂げていたことである。沖縄の教師の改革にかける熱意とエネルギーは、本土の教師を凌駕して

いる。この改革の熱気に包まれ、小橋川教育長から贈られたデイゴの花をあしらったデザインのかりゆしウェアを着て泡盛に舌鼓を打つと、私自身も沖縄の唄を歌い、たった一日で沖縄の同志になっていた。

燃える改革の息吹

7月6日、国頭中学校の公開研究会に参加した。同校は全校生徒148人、数年前まで宮城主事は毎日のように児童相談所と警察署を訪問しなければならぬほど、生徒たちが荒れていたという。かつて同校で荒れの解決に奮闘した小橋川教育長の話を聞くと、同校の荒れと県内最低と言われる低学力は宿命とさえ思われる。その国頭中学校に神元校長が「学びの共同体」を導入したのが、ちょうど1年前である。その1年間で学校は驚くほど変容した。今年度に入って不登校はゼロ、問題行動もゼロである。低学力の解決はまだ途上だが、それでもほぼ県平均の水準まで向上した。

この変化は地域の人々、特に議員たちを驚かせた。小橋川教育長は、村議会で「学びの共同体の説明」を求められたと目を細

めて語る。村議会は教師の研修費を大幅に増額し、すべての小中学校で「学びの共同体」の実践を支援することになった。この日も、国頭村のすべての教師、名護市、宮古島、東村、宜野座村、今帰仁村など、やんばるのすべての市町村から約250名の教師と教育委員会関係者が公開研究会に参加した。

どの教室を見ても、生徒が一人残らず授業に参加しているし、何より生徒の表情が明るく、細やかな感情が温かい雰囲気教室に生み出している。教師たちの声が柔らかに、テンションを下げ選ばれた言葉で語られているので、生徒たちが安心して学び合える教室が実現している。たった一年間で、ここまで授業を改革できたのは驚異である。もう同校が荒れることはないだろうし、低学力に苦しむこともないだろうと確信した。

提案授業としては、當真克亨先生が3年生の教室で「二次方程式」の提案授業を行った。當真先生の授業のデザインと生徒とのコミュニケーションは秀逸であったが、「共有の課題」（教科書レベル）の小グループの協同的学びにおいて生徒たちが思わぬ

つまづきを繰り返し、その対応に追われて「ジャンプの課題」には十分な時間を保障できなかった。この提案授業とそれに引き続く授業協議会は、国頭中学校の改革において、これから何が必要なのかを明確に示すものとして有意義であった。

これから取り組むべき課題の一つは、3年の教室の授業を観察すると、生徒たちは2年の途中から「学びの共同体」を経験したこともあって、わからない子どもが黙ったまま学び合いに参加していること。この問題は沖縄の風土にも関連している。沖縄の人々は共同体の意識が強く、何しろ対人関係が温かい。その温かさと優しさに包まれていると、たとえわからなくても、すべてが許されてしまう。そこにわからない子どもが大量に生み出されてしまう罠がある。これをどう解決していくのか。

もう一つの課題は、低学力の生徒が多いだけに、どうしても教師の設定する学びのレベルが低くなりがちであり、「共有の学び」に時間をかけすぎて「ジャンプの学び」がなおざりにされがちになることである。総じて同校の「ジャンプの学び」のレベルは低すぎるし、十分な時間を保障されてい

ない。

しかし、これらの課題についても国頭村の小中学校の教師たちは、来年までに一挙に克服してしまうだろう。学力の飛躍的上のドラマが、その過程で準備されるに違いない。

改革の展望と希望

翌7月7日、名護市の東江中学校の公開研究会に参加した。同校は3年前から島袋前教頭（現在羽地中学校長）が教育委員会の岸本さんの協力によって「学びの共同体」を導入し、数学と社会科を中心に漸進的に改革を進めてきた学校である。この4月からはすべての教室で「学びの共同体」を導入し、その改革を今年度から比嘉朝雄現校長が継承した。そして、この日も名護市内はもちろん、県内全域から250名を超える参加者が公開研究会に参加した。

同校は市内で最も困難な学校と言われてきたが、「学びの共同体」の導入によって数年前から劇的な変化を遂げてきた。数年前には38名であった不登校の生徒数は現在は1名、問題行動の事故件数は年間14件か

らゼロへと改善された。まだ学校ぐるみの改革は4か月ということもあって、遅刻者数などにおいては改善されていないし、深刻な低学力の問題も改善されていないが、わずか4か月とは思えないほど、どの教室においても生徒が学びに参加している。生徒の表情が明るく柔らかなのが素晴らしい。

提案授業では、1年生の教室で比嘉智広先生が「文字式の導入」の授業を公開した。これまで数え切れないほどの「文字式の導入」の授業を参観してきたが、比嘉先生の「ジャンプの学び」の挑戦は、どの授業よりも高度であり、生徒たちの学びはスリリングであった。欲を言えば「共有の学び」

を一つのステージとして大事にしていたできたかったが、それにしても比嘉先生は、この生徒たちがどれほど質の高い学びに挑戦できるかを教室の事実で示してくれた。その事実にも私も参加者とともに感動した。わずか4か月の改革によってここまで変わっていくのかと、東江中学校においても前日の国頭中学校にひき続いて感嘆しつばなしの一日であった。

那覇空港に向かう車の中で、あらためて沖縄に潜在している学校改革の炎について思いをめぐらした。国頭中学校の公開授業では、ちょうど県議会が一致して「オスプレイ配備反対」の集会を県民に呼び掛けた直後であったこともあって、社会科ではそ

の新聞記事を教材として生徒たちが熱心に沖縄の現実について学び合っていた。この歴史が改革の炎の根底にある。

さらに言えば、沖縄の教師たちは20倍から50倍近い倍率で採用された優秀な教師たちである。沖縄の教師が同僚性において優れているのは沖縄の風土だろう。沖縄県は財政難のため、長らく中学校教師の半数近くを臨採に頼ってきた。しかし、この数年で本土並みにする教師政策が現在進行している。これらの条件に支えられて、数年間で「学びの共同体」の学校改革は沖縄全土に改革の炎を拡大することになるだろう。その「始まりの歴史的事件」が確かにこの数日で起こったのである。

学校見聞録

学びの共同体の実践

学習院大学教授
日本教育学会前会長

佐藤学 著

好評
発売中!



教育改革のすべての
答えは「現場」にある!

訪問した学校数、20か国以上、2800校。
「行動する教育学者」が見た、
変わる学校・変わる教室

定価・1680円(税込)

四六判・320ページ ISBN978-4-09-837399-4

小学館